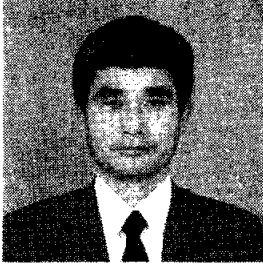




自然環境部が

スタートして！

村野紀雄



今年（平成三年）五月に、野生動物物の保全などを扱う公的研究部門としては都道府県で初めてという、北海道環境科学センター自然環境部がス

タートし、はや六カ月たちりました。これとはじめには様々なことがあるもので、メンバーが揃い、当面の事業が動き出したのは発足から二カ月余りたってからでした。そして、冬にはいる前にやっておかなければならない沢山のフィールド調査、部新設にともなう事務、事業の実施計画や実施事務など、なかなかの作業量です。十二月に入ってフィールド作業が多少なくなってきたので、私もメンバーの一人となりましたので、実施している業務などについて紹介しましょう。

まず、組織ですが、現在、植物環境科と野生動物科の二科と主任研究員、部長があり、各科には科長の他、研究職員が二名ずつ配置され、総員で八名となっています。

科名が示すように動植物の調査研究を通して北海道の自然環境に関わっていくこととなります。

本年度の中心的な事業としては、すぐれた自然地域保全検討調査事業（道央、道南地域）、自然公園特定地域保全対策事業（霧多布湿原、夕張岳登山道、雨龍沼湿原）、野生動物分布等実態調査（ヒグマ、エゾシカの生態や生息数等の調査）があります。その他、湿原のモニタリング調査やシマフクロウなどの調査もあります。

このような数多くの課題に対して組織内外のたくさんの方々の協力やアド

バイスをいただきながら、事業の推進に当たっているとところです。とくに、全道的に農業被害が問題化しているエゾシカ、地域的に激減の恐れのあるヒグマについて適正な保護管理システムづくりのための科学的データの積み上げが重要な課題となっています。このため、調査ネットワークなどの体制作りにも力を尽くしているところです。

このように、行政として緊要な課題や道民の要望と密接に関連して、科学的な支援を行うことが自然環境部の存在意義と言えますが、そうした対応を適切に行うためには、本質的な問題解決のための基本的、長期的な調査研究なくしては貢献することができないわけで、現在、長期的基本的な調査研究の方向を次のように考えています。

1. 野生動物植物の生息域の環境保全という視点を一つの大きな柱とする。
2. 野生動物植物の総合的なデータの集積を目指す。
3. 野生動物植物について、生態の解明を目指す。

長期的の基礎研究を進めながら、その時どきの課題にも応えていき、それをデータとして生かすことができれば様々な人にも役立てられるにちがいないと思います。

いずれにせよ、このような分野の研究拠点がやっとなってきたということで、できるだけの絞って、役立て

られる研究成果を出すとともに、関係する分野の機関や人と連携できる体制を整えて行きたいと考えております。ご支援をお願いします。

なお、環境研（旧公害研）は、北大北隣の、斜め通り奥の、道研究団地にあります。自然環境部の部屋は仮住いですが、来年には専用の研究室や実験室が造られる予定です。

（北海道環境科学センター自然環境部長 江別市在住）